

特集

進学センサス 2016

「偏差値って操作できるんですね」。これは、インタビューした女子高校生の言葉である。これにはいささか驚いた。しかし、それも当然かもしれない。文部科学省が発表した2015年度(平成27年度)における一般入試の入学率比率は56.1%(国立84.6%、公立73.2%、私立49.0%)となっている。今や一般入試の入学率は半数に過ぎないのである。偏差値とは、いわば模試で算出される一般入試の“レベル”である。一般入試の割合を変動させることで、偏差値は操作し得るものだと、高校生は言っているのだ。かつて絶対的な指標であった偏差値が、絶対的でなくなってきた。これを、高校生は冒頭のような言葉で表現しているのではないだろうか。

では、イマドキの高校生は一体どのように進路を決めているか。そうしたリアルな高校生の進路選択状況を知るために、1990年代より、『リクルート進学センサス』を実施している。高校を卒業して進路が確定したばかりの生徒に、自身の進路選択のプロセスを振り返ってもらうという調査である。もちろん、対象者は、大学進学者だけではなく、

い。大学、短大、専門学校など、高校生の進路選択は様々であり、進路を選択するプロセスは一律ではない。多くのステークホルダーやメディア、学事などが複雑に絡み合っている。長期にわたり、多くの高校生のデータを集めることで、ある程度定量的に、エビデンスベースで高校生の進路選択プロセスが解明されるようになってきた。

高校生は、やはり学びたい学部・学科・コースを中心に選んでいる。しかし、選択する際“トリガー”になる事象や時期は、学部・学科、男女、学校種によって、大きく異なっていることが分かる。例えば、高校生は、大学、短大、専門学校に異なる“メリット”を求めている。また、社会科学系と医療系では、進路選択の幅や見ているポイントも全く異なっている。さらに、社会環境の変化によって、高校生の進路選択は大きな影響を受けている。留学についても、その価値は、ここ数年で就職を意識したものに変わりつつある。今回の特集が、高校生の進路選択行動について、一緒に考える一助となれば幸甚である。

(本誌編集長 小林 浩)

● 調査概要 ●

■ 調査目的

高校生の進路選択プロセス(行動・意識)の現状を把握する

■ 調査期間

2016年3月18日(金)～4月11日(月) 投函締切 (4月18日(月)到着分までを入力対象とした)

■ 調査方法

質問紙による郵送法

■ 調査対象

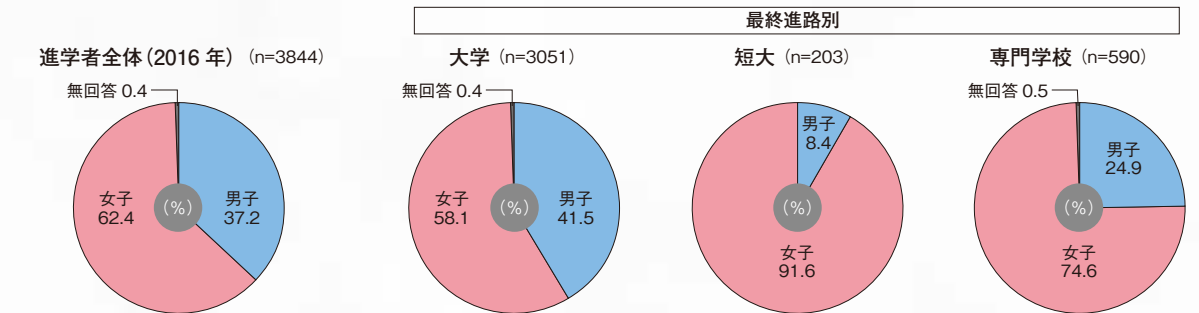
2016年に高校を卒業した全国の男女50000人

※平成27年度学校基本調査の「全日制・本科3年生生徒数(県別)」を基に、リクルートが保有するリスト^(注)より調査対象とする数を抽出

(注) リクルートが保有するリストとは、リクルートが発行する進学情報誌「リクナビ進学ブック」及び、配信する進学情報WEBサービス「リクナビ進学」(<http://shingakunet.com/>)会員リスト

● 回答者プロフィール ●

■ 性別 (全体/単一回答)



■ 高校所在エリア (全体/単一回答)

	調査数	北海道	東北	北関東・甲信越	南関東	東海	北陸	関西	中国・四国	九州・沖縄	無回答	大都市圏	大都市圏以外
進学者全体	3844	3.8	7.2	9.5	28.8	12.1	2.2	19.2	7.4	9.5	0.4	50.8	49.2
《最終進路別》													
大学	3051	3.5	6.3	9.0	31.2	12.0	2.0	20.0	6.9	8.6	0.4	53.9	46.1
短大	203	2.5	13.3	8.9	18.2	14.8	6.4	12.8	9.9	13.3	-	35.5	64.5
専門学校	590	5.9	9.5	12.5	19.7	11.5	1.7	16.9	8.8	12.9	0.5	40.2	59.8

※大都市圏：1都3県(南関東)、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県